

## 序

平成23年4月1日に中核都市へと移行した高崎市は、人口37万6千人を数える北関東有数の拠点都市として発展しています。

本書は、市道建設に伴う発掘調査報告書です。近年の発掘調査の成果により、本遺跡を含む周辺一帯には古代からの集落や、水田などの生産地域が広がっていることが明らかとなってまいりました。本遺跡では上飯塚城の堅固な外堀の跡などが見つかっており、中世の人々が戦に備えつつ生活にいそしんでいた息吹が感じられます。

本書の刊行が高崎市の多様な歴史を知る一助となれば幸いに存じます。

最後に、本報告書の発掘調査ならびに報告書作成に多大なるご協力をいただいた地元の皆様、関係機関、各諸氏の方々に厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

高崎市教育委員会  
教育長 飯野眞幸

## 例 言

---

- 1 本書は、高崎市市道A903号線建設に伴い実施した「飯塚貝沢掘添遺跡2」の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、高崎市飯塚町533-1他に所在する。また、本遺跡の遺跡番号には621を付した。
- 3 発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。  
調査組織は、以下の通りである。

平成26年度	平成27年度
・教育委員会 飯野眞幸(教育長)・上原正男(部長)・松本伸(課長)	・教育委員会 飯野眞幸(教育長)・上原正男(部長)・若狭徹(課長)
・事務局(文化財保護課) 田口一郎(課長補佐兼係長)・針井修(主査)・ 加藤志津代(主任主事)	・事務局(文化財保護課) 角田真也(係長)・針井修(主査)・ 加藤志津代(主任主事)
・調査担当 矢島浩(主査)・原田直人(主査)	・整理担当 矢島浩(主査)
- 4 発掘調査期間：平成26年11月15日～平成27年3月13日、整理作業期間：平成27年5月6日～平成28年3月31日
- 5 本書の作成は矢島が行った。また、遺構の写真撮影も矢島が行った。
- 6 本遺跡の出土遺物・記録類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 7 発掘調査にあたり、飯塚町第3区長をはじめとする地元関係者にご協力をいただいた。

## 凡 例

---

- 1 本書で使用した地図は、国土地理院発行1/25000地形図(高崎)である。
- 2 本書の座標値は世界測地系であり、方位は上記の座標北である。
- 3 本書中の図版縮尺は各図に表示した。また、断面図に付した標高はT.Pを基準とした。
- 4 土層・遺物の色調および土壤の注記は、農水省農林水産技術会事務局および(財)日本色彩研究所監修『新版標準土色帖(1990年版)』を使用した。
- 5 遺構及び火山灰等には次の略号を使用した。  
SD：溝状遺構 Hr-FA：6世紀初頭、Hr-FP：6世紀中葉の榛名山二ツ岳噴火に由来する火山降下物。  
As-A：1783(天明3)年、As-B：1108(天仁元)年の浅間山噴火に由来する火山降下物。  
As-C：3世紀後半の浅間山噴火に由来する火山降下物。

## 目 次

---

序	4章 まとめ..... 10
目次・挿図目次・表目次	写真図版
1章 調査に至る経緯	抄録
1節 調査に至る経緯..... 1	挿図目次
2節 調査の方法..... 1	第1図 周辺遺跡分布図..... 2
2章 遺跡の立地と環境	第2図 遺跡立地図..... 3
1節 遺跡の立地と地理的環境..... 1	第3図 調査区全体図..... 4
2節 遺跡周辺の歴史的環境..... 5	第4図 1区 平面図・断面図・出土遺物図..... 6
3章 検出された遺構と遺物	第5図 2区 平面図・断面図・出土遺物図..... 7
1節 検出された遺構と遺物..... 5	第6図 3区 平面図・断面図・出土遺物図..... 8
(1) 1区の溝状遺構..... 5	第7図 4区 平面図・断面図・出土遺物図..... 9
(2) 2区の溝状遺構..... 5	表目次
(3) 3区の溝状遺構..... 8	第1表 周辺遺跡一覧表..... 3
(4) 4区の溝状遺構..... 9	第2表 遺物観察表..... 10

# 1章 調査に至る経緯

## 1節 調査に至る経緯

平成26年6月、高崎市建設部土木課より高崎市教育委員会文化財保護課(以下保護課)に高崎市市道建設事業に関り、飯塚町の埋蔵文化財の状況について照会があった。保護課は、該当地周辺が民間開発に伴い発掘調査された飯塚貝沢堀添遺跡に隣接し、上飯塚城の外堀内であることや縄文～中近世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された地域であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年6月11日付けで、土木課より試掘調査依頼書が提出されたのを受けて、保護課は平成26年7月1日～3日に開発予定地の試掘調査を実施し、部分的な攪乱はあるものの中世の上飯塚城外堀の遺構を確認した。

試掘調査結果を受けて土木課と協議を行い、遺構が現存する650m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することとした。

本調査は、同年度12月から発掘調査作業、27年度に整理作業と報告書作成を実施した。

## 2節 調査の方法

発掘調査は平成26年12月から27年3月まで実施した。発掘調査対象地が市街地であり、発掘調査中に生じた排土の仮置き場を確保するため調査対象地を4つに分割し、東側の上飯塚城外堀から着手した。

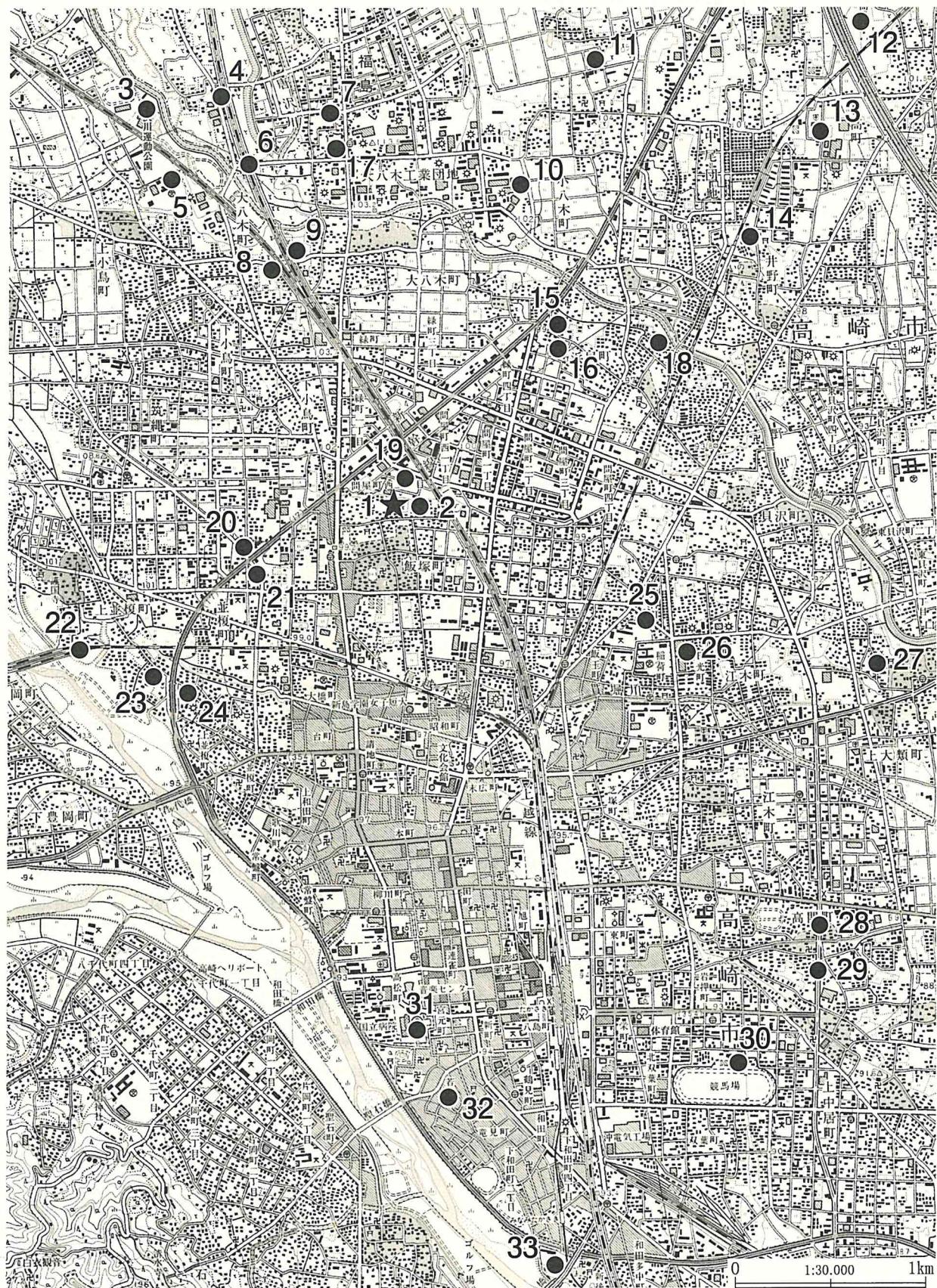
発掘調査は、遺構が確認される深さ(遺構確認面)まで重機を使用して表土除去作業を行った。遺構確認面では人力により遺構平面の検出を行い、遺構の形状や重複関係の確認を行った。遺構確認後、上飯塚城外堀の上部から中部までの掘り込みを重機で行い、順次人力での掘削を行った。掘削が完了した遺構は光波測距機で平面図・断面図および遺物出土状況の記録図作成を行い、35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラによる記録写真撮影を行った。すべての遺構の調査が完了した後に埋戻しを行った。

# 2章 遺跡の立地と環境

## 1節 遺跡の立地と地理的環境

飯塚貝沢堀添遺跡2は、高崎市飯塚町に所在し、JR北高崎駅より北約900mの市街地に位置している。南西1.9kmには榛名山西麓鼻曲山(標高1654m)を水源とする烏川が流れ、北東1.5kmには榛名山東南麓に形成された相馬ヶ原扇状地を水源とする。本遺跡はこれら両河川に挟まれた場所に位置し、平坦で低湿地な沖積地域中の微高地にあり、標高は99mである。

遺跡がある微高地は高崎台地と呼ばれる台地で、約2.1万年前の浅間山火山起源により発生した前橋泥流と呼ばれる堆積物が土台としてあり、その上層に約1.1万年前に堆積した高崎泥流が基礎になって形成されている。この高崎泥流の範囲は、高崎泥流の範囲は、本遺跡から北西約2kmの高崎市大八木町付近を北限とし、西は烏川、東は井野川を境とし南端は井野川と烏川が合流する岩鼻町で、おおよそ烏川と井野川に囲まれた地域である。泥流層下には、約2万年前に降下したAs-BP(浅間板鼻褐色軽石群)、約1.3万年前に降下したAs-YP(浅間板鼻黄色軽石)という浅間山の火山噴火を起源とした軽石の堆積が確認されている。



第1図 周辺遺跡分布図

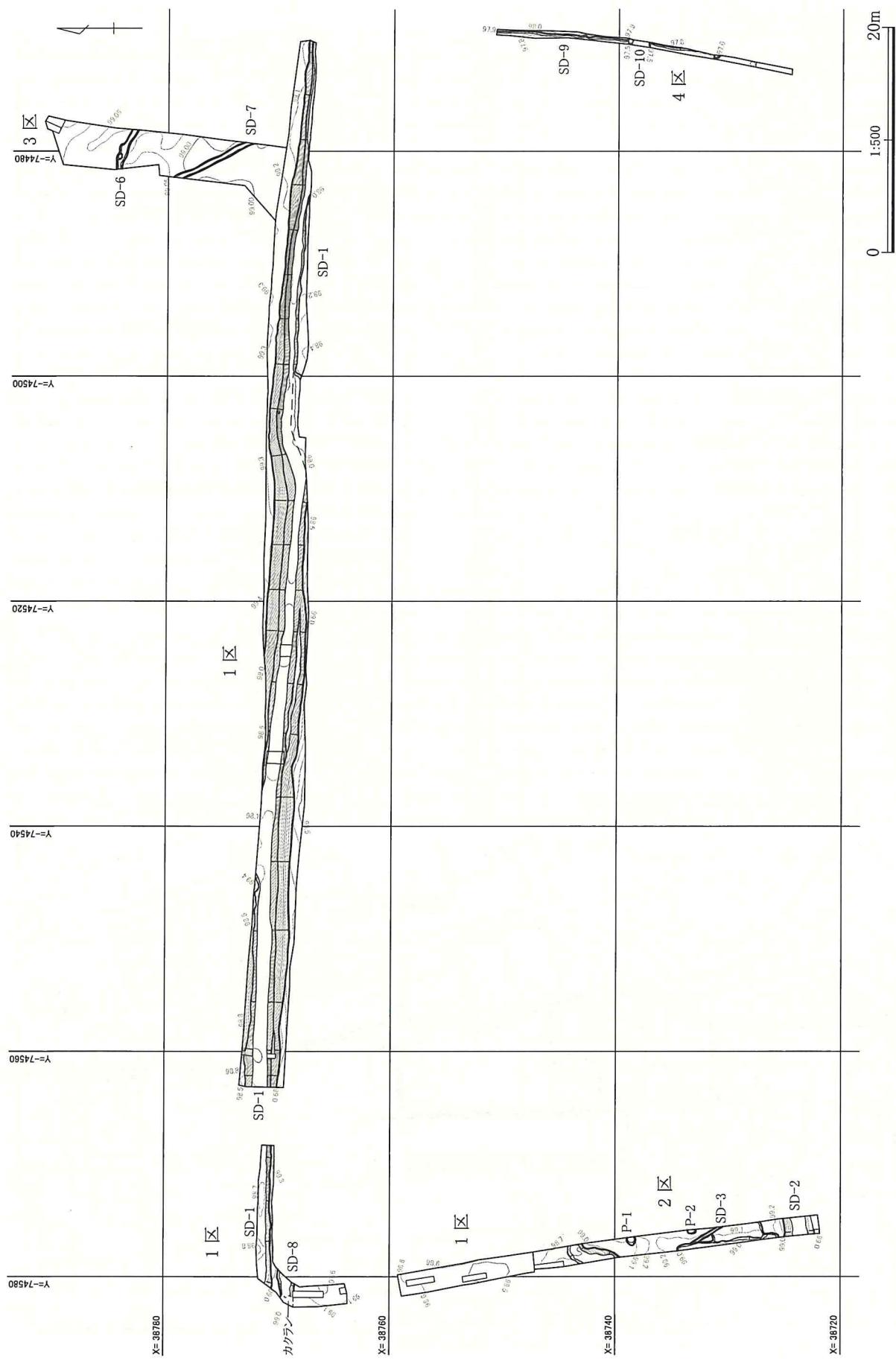
第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	文献名・刊行年
1	本遺跡	集落	飯塚貝沢堀添遺跡2 2016
2	飯塚貝沢堀添遺跡	集落	飯塚貝沢堀添遺跡 2011
3	御布呂遺跡	生産	御布呂遺跡 1980
4	熊野堂遺跡 II・III	集落	熊野堂遺跡 II・III 1984・1990
5	芦田貝戸遺跡II	生産	芦田貝戸遺跡II 1980
6	熊野堂遺跡II	生産	熊野堂遺跡II 1990
7	雨壺遺跡	集落	熊野堂遺跡第III地区・雨壺遺跡 1984
8	大八木屋敷遺跡	生産	大八木屋敷遺跡 1995
9	融通寺遺跡	集落	融通寺遺跡 1991
10	小八木I遺跡	集落・生産	小八木I遺跡 1979
11	正觀寺遺跡群 I	集落	正觀寺遺跡群(I) 1979
12	日高遺跡	集落・生産	日高遺跡(1) 1979 日高遺跡 1982
13	中尾村前遺跡	生産	中尾村前遺跡 1988
14	井野清水遺跡	包含層	高崎市内緊急埋蔵文化財発掘調査報告書 1992
15	浜尻A地点遺跡	集落	群馬県史 資料編2 1986
16	浜尻遺跡	集落	浜尻遺跡 1981
17	大八木・伊勢廻遺跡2	集落	大八木・伊勢廻遺跡2 2010
18	浜尻旭貝戸遺跡	集落	浜尻旭貝戸遺跡 2002
19	大八木富士廻遺跡	集落	高崎市内緊急埋蔵文化財発掘調査報告書 1987
20	並榎北遺跡	生産	並榎北遺跡 1988
21	並榎北II・III・IV・V遺跡	生産	並榎北II・III・IV・V遺跡 1996
22	上並榎南遺跡	集落	上並榎南遺跡 1985
23	上並榎屋敷前遺跡	集落	上並榎屋敷前遺跡 1992
24	巾遺跡	集落	群馬県遺跡調査報告書 群馬県の遺跡 1963
25	稻荷町I遺跡	集落	稻荷町I遺跡
26	林製作所遺跡	集落か	群馬県史 資料編2 1986
27	上大類北宅地遺跡	集落	上大類北宅地遺跡 1983
28	高閔堰村遺跡	集落	高閔堰村遺跡 1992
29	高閔村前遺跡	集落	高閔村前遺跡 1993
30	高崎競馬場遺跡	集落	群馬県遺跡調査報告書 群馬県の遺跡 1963
31	高崎城遺跡	集落	高崎城遺跡III・IV・V 1990
32	竜見町遺跡	包蔵地	群馬県史 資料編2 1986
33	群馬県高崎市城南小学校庭弥生遺跡	集落	群馬県高崎市城南小学校庭弥生遺跡 1973



第2図 遺跡立地図

第3図 調査区全体図



## 2節 遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡周辺では数多くの遺跡が発見されている。以下その一部を取上げ、本遺跡周辺の歴史的環境を概観する。

本遺跡周辺では厚い泥流層の堆積により旧石器時代の遺跡の検出は知られていない。可能性のある遺物としては雨壺遺跡と融通寺で出土・採集されている槍先形尖頭器がある。縄文時代の遺跡も顯著とは言い難く、遺物の出土はあっても明確な遺構の検出は少ない。

弥生時代になると、本遺跡から西1kmに並榎北遺跡があり、水田跡が検出されている。また、南約4kmには竜見町式土器の標識遺跡である竜見町遺跡が、さらに南約5kmには群馬県高崎市城南小学校校庭弥生遺跡があり、多くの土器が出土している。南東約4kmにある高闘堰村遺跡、高闘村前遺跡では竪穴建物や環濠と考えられる溝が検出されている。東に隣接する飯塚貝沢堀添遺跡や北東に隣接する大八木富士廻り遺跡でも集落跡が検出されている。北東約3.5kmには日高遺跡があり、水田跡と集落跡が検出されている。いずれの遺跡でも微高地上に集落を営んでいる様子が窺える。

古墳時代の遺跡では、並榎北II・III・IV・V遺跡からAs-C下、御布呂遺跡でHr-FA・Hr-FP下から「ミニ水田」または「小区画水田」と呼称される水田跡が検出されており、榛名山二ツ岳噴火に伴う泥流層に約2mもの厚さで被覆された小区画水田が良好な状態で検出されている。北東約1.5kmにある浜尻遺跡、浜尻A地点遺跡では集落跡が検出され、南西約2kmにある上並榎南遺跡、上並榎屋敷前遺跡でも集落跡が検出されている。古墳時代も弥生時代に引き続き微高地上に集落を形成している様子が看取される。

平安時代の遺跡では、北1.5kmにある大八木屋敷遺跡では、門・塀・溝によって区画された8世紀後半から9世紀前半にかけての掘立柱建物群が検出され、古代群馬郡官衙の一つである「八木院」である可能性が指摘されている。天仁元年(1108)に噴火したとされる浅間山に由来する火山噴出物(浅間B軽石: As-B)は広く飛散しており、この軽石層に覆われた水田跡は高崎市内でも広域で確認されている。本遺跡の周辺では、同じ町内にある飯塚雁田II遺跡、飯塚西金井II遺跡、飯塚東金井遺跡など枚挙に暇がない。また、本遺跡より南東へと広がる後背湿地帯には、大八木条里など広範囲の条里水田域が想定されており、広い範囲で平安時代の生産域が展開していたことが明らかとなりつつある。

近世の遺跡では、高崎城遺跡や城下町遺跡などが調査されている。また、天明三年(1783)の浅間山噴火に伴う火山噴出物(浅間A軽石: As-A)層を除去した水田跡や畠跡などが東町遺跡、栄町遺跡、岩押町遺跡などでそれぞれ確認されている。以上のような地理的・歴史的環境の中で本遺跡は位置づけられている。

## 3章 検出された遺構と遺物

### 1節 検出された遺構と遺物

#### (1) 1区の溝状遺構

調査区は東西101m、幅4m、一部既存道路の拡張部分のため2mと細長いものである。また、一部既存道路の関係上調査のできない部分もあった。表土直下より溝状遺構2条を検出した。

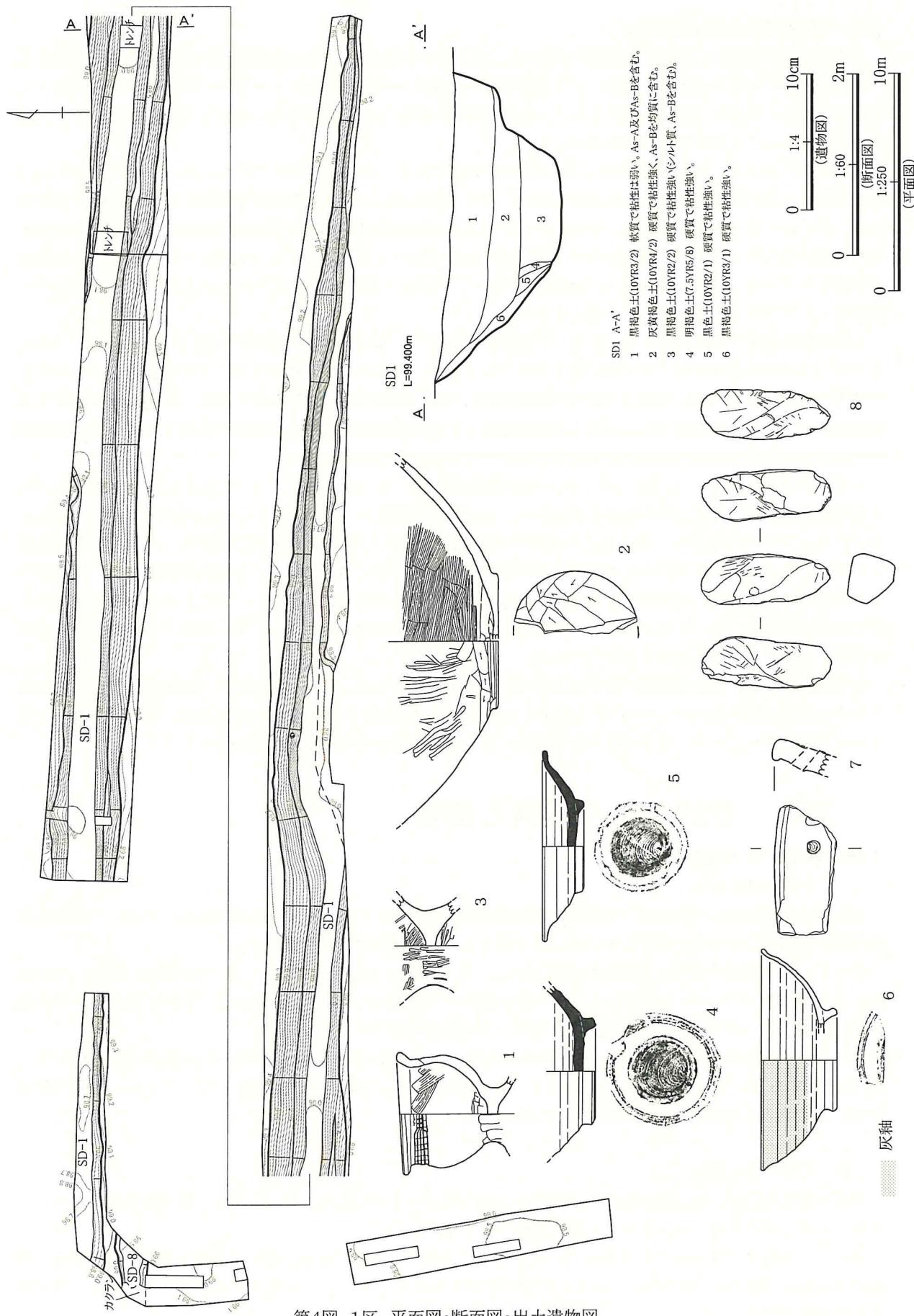
SD-1 上飯塚城の外堀と想定される堀である。ほぼ東西に走向ものである。覆土は黒褐色を呈し、As-B混土とAs-B混入するシルト質である。検出長は101m、幅は3.6m、深さ1mである。断面形状は箱形である。主軸方位はN-87°-Wである。本遺構からの遺物は中世陶器等が出土している。

SD-8 1区の西端で検出され、SD-1に沿うように東西に走向するものである。覆土は黒褐色を呈し、As-B混土である。検出長は1.5m、幅は1.2m、深さ10cmである。断面形状は皿形を呈している。主軸方位はN-90°-Wである。本遺構からの遺物の出土はなかった。

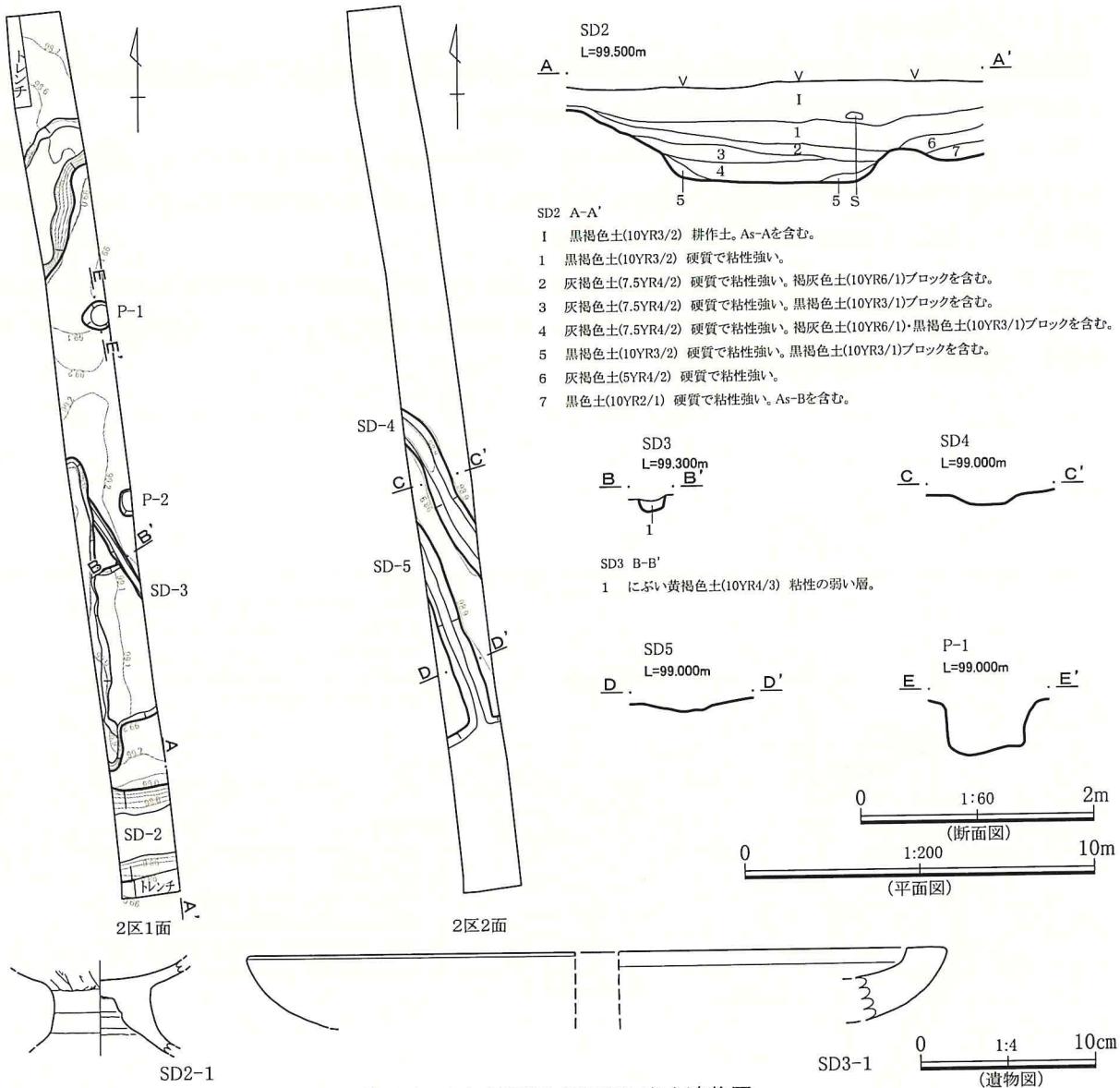
#### (2) 2区の溝状遺構

調査区は南北25m、幅は既存道路の拡幅部分2mの細長いものである。表土直下より溝状遺構2条、ピット1基、基本土層の4層上面が2面で、溝状遺構2条を検出した。

SD-2 調査区の南端から検出された。ほぼ東西に走向するものである。覆土は灰褐色土が主体である。検出長は1.65m、幅2.5m、深さ50cmである。断面形状は皿形を呈している。主軸方位はN-90°-Eである。本遺構からの遺物の出土はなかった。



第4図 1区 平面図・断面図・出土遺物図



第5図 2区 平面図・断面図・出土遺物図

SD-3 調査区のほぼ中央部から検出された。北西から南東に走向するものである。覆土は灰褐色土が主体である。検出長は2.9m、幅40cm、深さ13cmである。断面形状は箱形を呈している。主軸方位はN-32°-Wである。本遺構からは茶臼が出土した。

ピット1 調査区の中央部やや北よりから検出された。覆土は灰褐色土が主体である。直径90cm、深さ50cmの円形を呈している。

ピット2 調査区のほぼ中央部から検出された。覆土は灰褐色土が主体である。直径80cm、深さ30cmの橢円形を呈している。

SD-4 調査区2面のほぼ中央部から検出された。北西から南東に走向するものである。覆土は灰褐色土が主体である。検出長は4.5m、幅70cm、深さ12cmである。断面形状は皿形を呈している。主軸方位はN-25°-Wである。本遺構からの遺物の出土はなかった。

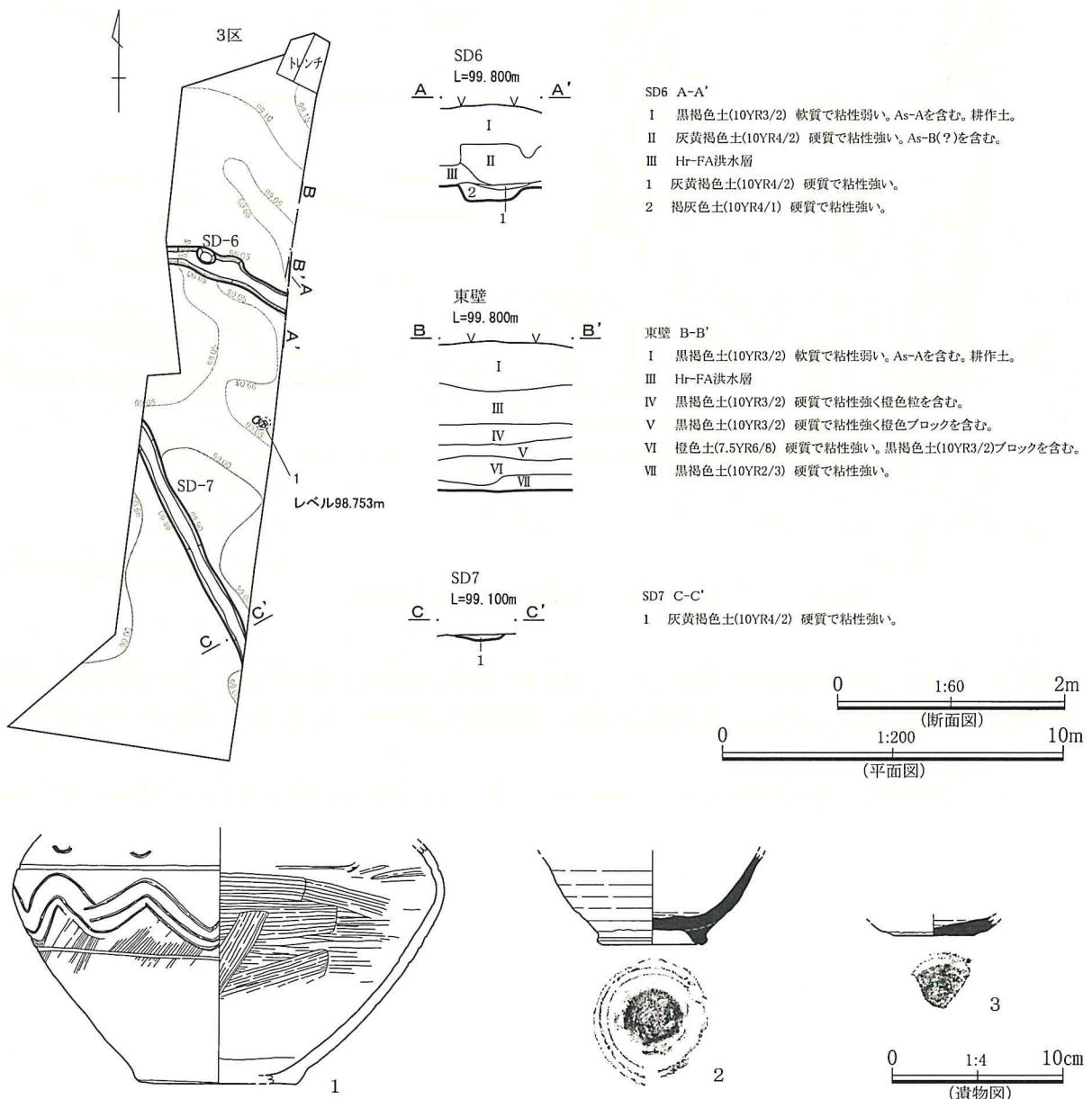
SD-5 調査区2面の中央部南よりから検出された。北西から南東に走向するものである。覆土は灰褐色土が主体である。検出長は5m、幅70cm、深さ12cmである。断面形状は皿形を呈している。主軸方位はN-16°-Wである。本遺構からの遺物の出土はなかった。

### (3) 3区の溝状遺構

調査区は南北21.5m、幅5mの長いものである。基本土層の4層上面が2面で、溝状遺構2条を検出した。土層のV層が遺物の包含層で弥生時代中期後半の壺が検出された。

SD-6 調査区の中央部やや北よりから検出された。北西から北東に走向するものである。覆土は灰黄褐色土と褐灰色土である。検出長は3.9m、幅50cm、深さ16cmである。断面形状は皿形を呈している。主軸方位はN-64°-Wである。本遺構からの遺物の出土はなかった。

SD-7 調査区の中央部やや南よりから検出された。北西から北東に走向するものである。覆土は灰黄褐色土である。検出長は7.8m、幅60cm、深さ6cmである。断面形状は皿形を呈している。主軸方位はN-27°-Wである。本遺構からの遺物の出土はなかった。



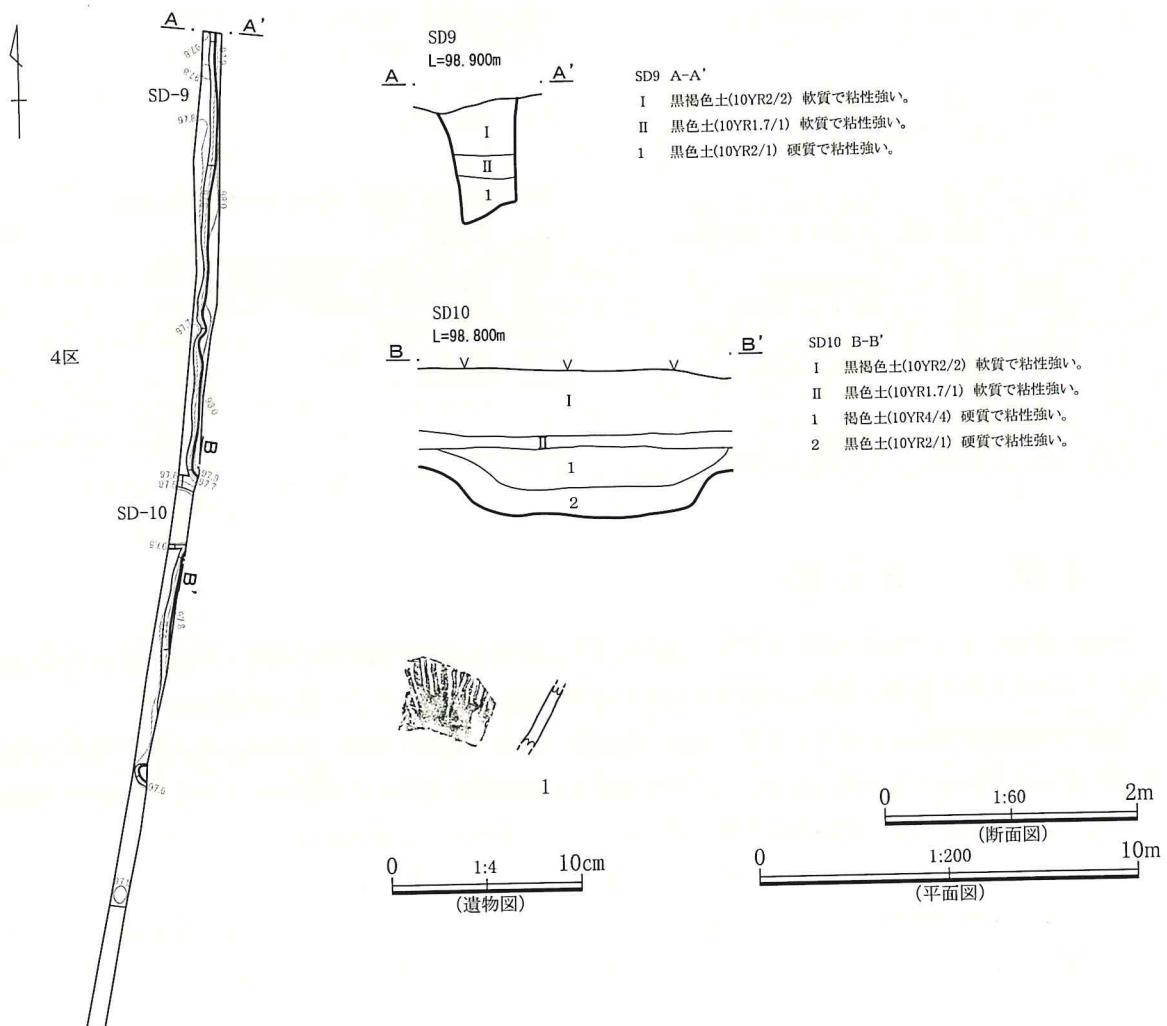
第6図 3区 平面図・断面図・出土遺物図

#### (4) 4区の溝状遺構

調査区は南北26.5m、幅60cmと細長いものである。4区は上飯塚城の内堀内と想定され、溝状遺構2条が検出された。

SD-9 調査区内全てが溝状遺構内である。覆土は黒褐色土と黑色土が主体である。検出長は26.5m、幅60cm、深さ1mである。断面形状は不明である。主軸方位はN-27°-Eで、ほぼ南北に走向している。本遺構からの遺物の出土はなかった。

SD-10 調査区の中央部から検出された。SD-9を切って作られている。覆土は黑色土と褐色土が主体である。検出長は60cm、幅2m、深さ45cmである。断面形状は皿形である。主軸方位はN-85°-Wである。本遺構からの遺物の出土はなかった。



第7図 4区 平面図・断面図・出土遺物図

## 遺物観察表

1区 SD-1

( ) : 復元値、〔 〕: 残存値

番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置
1	弥生土器 台付甕	口径 9.0 くびれ部 4.0 器高 [13.3]	①約2/3(脚一部、胴部、口縁部) ②10YR 6/2 灰質褐色	外面 胴部窓削、上位櫛描文巡る。 内面 底～胴部窓撫、口縁横撫。／脚部「ハ」の字に開き、胴部緩やかに彎曲、上位櫛描文巡り、口縁外傾し口唇平坦。	覆土
2	弥生土器 壺	口径 - 底径 (9.0) 器高 [7.0]	①底部～胴部破片 ②10YR 2/3 浅黄橙色	外面 底部手持ち窓削、胴部窓削、窓磨。 内面 底部窓撫、胴部刷毛目。 平底、底部突出、胴部広く内湾。	覆土
3	弥生 台付甕	口径 - くびれ部 5.6 器高 [4.2]	①くびれ部破片 ②外：10YR 8/1 灰白色 内：10YR 1-7/1 黒色	外面 窓磨き。 内面 窓磨き。	覆土
4	須恵器 高台坏	口径 - 底径 7.9 器高 [3.5]	①底部全残～体部一部残 ②7.5Y 8/1 灰白色	外面 底部回転糸切り、高台部断面「台形」、体部輶轆整形。 内面 底部～体部輶轆整形。 体部「ハ」の字に直線的に開き、弱く内湾。	覆土
5	須恵器 高台坏	口径 (14.0) 底径 (6.6) 器高 3.0	①全形の約1/2 ②7.5Y 8/1 灰白色	外面 底部回転糸切り、体部輶轆整形、口縁横撫。 内面 底部～体部輶轆整形、口縁横撫。／高台部断面「台形」、体部「ハ」の字に開き口縁短く水平に外傾。	覆土
6	灰釉陶器 高台坏	口径 (16.3) 底径 (7.2) 器高 6.5	①約1/5 底～口縁破片 ②7.5Y 8/1 灰白色	外面 体部輶轆整形、口縁横撫。 内面 体部輶轆整形、口縁横撫。／高台部断面不整「U」の字形。体部緩やかに彎曲し口縁で短く内傾してから弱く外傾、口唇丸い。	覆土
7	軟質陶器 (中世) 焰烙	口径 - 底径 - 器高 [4.5]	①破片 ②10YR 5/1 褐灰色	刺突あり、口唇平坦。	覆土
8	砥石	最大巾：9.5cm最小巾：3.8cm厚み：3.5cm重さ：108g	石材：流紋岩		覆土

2区 SD-2

1	土師器 台付甕	口径 - くびれ部 5.6 器高 [5.4]	①高台部破片 ②10YR 5/6 赤色	外面 脚部窓削。 内面 脚部窓撫、胴部窓撫。 脚部基部太く、先細り。	覆土
---	------------	------------------------------	------------------------	--	----

2区 SD-3

1	(中世) 茶臼	口径 (40.0) 底径 - 器高 [4.1]	①茶臼の下石破片	石材：粗粒安山岩	覆土
---	------------	-------------------------------	----------	----------	----

3区

1	弥生土器 壺	口径 - 底径 8.9 器高 [13.3]	①底～胴部大きな破片 ②10YR 8/4 淡黄橙色	外面 底部手持ち窓削、胴部2条の沈線の間に櫛描文、刷毛後窓調整。 内面 胴部刷毛。 底部平底、突出気味。胴部肩部で最大径となる。	2面上面
2	須恵器 高台坏	口径 - 底径 6.4 器高 [5.1]	①底～体部 ②2.5Y 8/1 灰白色	外面 底部回転糸切り、体部輶轆整形。 内面 底部～体部一部輶轆整形、体部撫(布?)。高台部断面「不整台形」。	覆土
3	須恵器 坏	口径 - 底径 (4.6) 器高 [1.1]	①底～体部破片 ②2.5Y 8/2 灰白色	外面 底手持ち窓削、平底。 内面 輶轆整形。	覆土

4区

1	弥生土器 甕	口径、底径、 器高なし	①破片 ②7.5YR 4/2 灰褐色	櫛描文あり。	覆土
---	-----------	----------------	-----------------------	--------	----

## 4章　まとめ

今回の調査によって確認されたものは、16世紀後半に築造された上飯塚城の外堀と内堀と想定される溝状遺構とそれ以前の溝状遺構、遺物包含層からは弥生時代中期後半の壺などの土器が検出された。

鎌倉時代の文献史料によると、寺尾・山名・倉賀野・綿貫・鳴名・和田・長野の各氏が高崎市域に根拠を築いていたことが分かっている。しかし、これら御家の館跡が比定された例はほとんどなく、市内の発掘調査で確認された城館跡の多くが14世紀以降の武士団によって築かれたものである。

上飯塚城は、これらの武士団のうち和田氏の支配域に含まれる。和田氏は16世紀に武田方に属した武士団で、北の長野氏や南西の倉賀野氏といった上杉方の武士団と対立していた。本遺跡である上飯塚城や西にある並木城、南東にある下ノ城は和田氏の本拠地である和田城の外堀で、長野氏との対立が激化した16世紀後半に築造されたものである。

検出された外堀と想定されるSD-1は、1区からさらに西に延びているが、東に隣接する飯塚貝沢堀添遺跡で検出されていないことから1区東で南に曲り、4区の内堀と想定されるSD-9に合流するものと考えられる。

遺物包含層については、3区の基本土層の5層で弥生時代中期後半の土器が出土している。1986年に調査され、同じ時期の遺構が確認されている大八木富士廻り遺跡が北西150mと近接した地点にあり、飯塚貝沢堀添遺跡と同様に本遺跡の北側が当時の集落域であったと推測される。

## 1区写真



1区 SD-1 西から



1区 SD-1 東から



1区 SD-1 西から

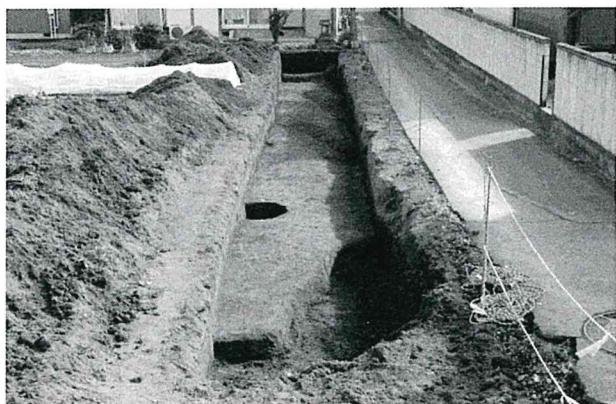


1区 SD-1 遺物出土状況

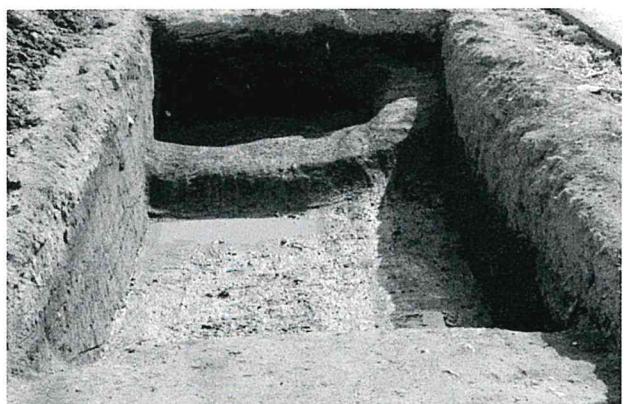


1区 SD-8 東から

## 2区写真



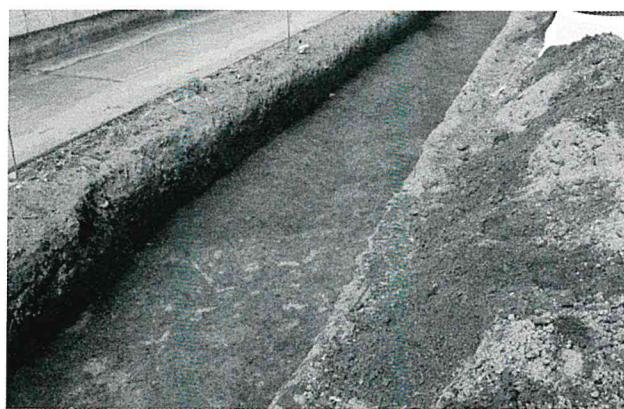
2区 全景 北から



2区 SD-2 北から



2区 SD-3 東から



2区 SD-4 東から



2区 SD-5 東から

### 3区写真



3区 全景 南から



3区 SD-6 東から



3区 SD-7 東から



3区 遺物出土状況

### 4区写真

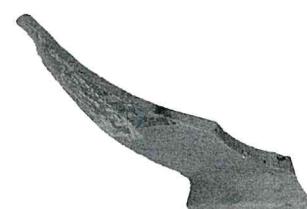
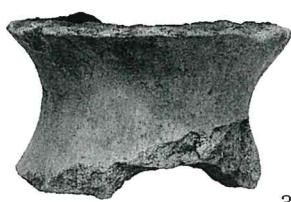
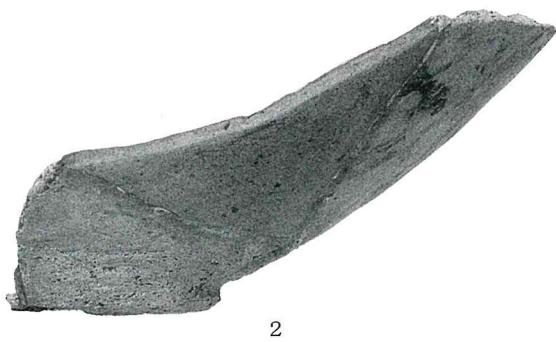


4区 内堀 南から

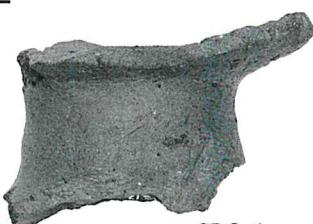


4区 内堀 北から

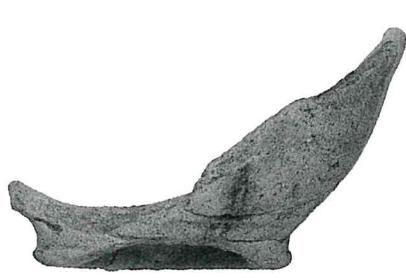
1区



2区



3区



4区

## 抄 錄

ふりがな	いいづかかいざわほりそいいせき
書名	飯塚貝沢堀添遺跡2
副書名	高崎市市道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告
シリーズ番号	第359集
編著者名	矢島 浩
編集機関	高崎市教育委員会
編集機関所在地	群馬県高崎市高松町35番地1
発行年月日	平成28年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	発掘面積	調査原因
		所在	地					
いいづかかいざわほりそいいせき 飯塚貝沢堀添遺跡2	ぐんまけんのかさきし 群馬県高崎市 いいづかまち 飯塚町	102020	621	36° 20' 47"	139° 00' 9"	2014.12.13 ～ 2015. 3.13	650m <sup>2</sup>	高崎市 市道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
いいづかかいざわほりそいいせき 飯塚貝沢堀添遺跡2	城館跡	中世	上飯塚城外堀・内堀	弥生土器 壺 須恵器 高台坏等	弥生時代中期 後半包含層

### <参考文献>

- |             |      |             |                        |
|-------------|------|-------------|------------------------|
| 高崎市市史編さん委員会 | 1996 | 『高崎市史』      | 資料編3 中世I(城館址・老古資料・金石文) |
| 高崎市教育委員会    | 2003 | 『飯塚雁田II遺跡』  | 高崎市文化財調査報告書 第186集      |
| 高崎市教育委員会    | 2007 | 『飯塚西金井II遺跡』 | 高崎市文化財調査報告書 第213集      |
| 高崎市教育委員会    | 2011 | 『飯塚・貝沢堀添遺跡』 | 高崎市文化財調査報告書 第284集      |

---

---

高崎市文化財調査報告書第359集

## 飯塚貝沢堀添遺跡2

—高崎市市道建設事業に伴う発掘調査報告書—

2016年3月18日印刷

2016年3月25日発行

編集・発行／群馬県高崎市教育委員会  
群馬県高崎市高松町35番の1  
電話 027(321)1111(代表)

印 刷／杉浦印刷株式会社

---